

BAB IV

KESIMPULAN

Dari hasil analisis kasus-kasus *Chikan* (痴漢), berdasarkan landasan teori Bab 2, penulis dapat menarik kesimpulan sebagai berikut :

1. *Chikan* (痴漢) adalah sebuah fenomena sosial yang terjadi dalam masyarakat perkotaan di Jepang. Hal ini terbukti dengan banyaknya kasus *Chikan* (痴漢) yang terus meningkat dari tahun ke tahun.
2. Banyaknya kasus *Chikan* (痴漢) yang terjadi di *densha* membuktikan bahwa *densha* merupakan tempat yang paling diminati oleh *Chikan* (痴漢) dalam melakukan aksinya. *Densha* adalah salah satu transportasi umum yang banyak peminatnya, tidak hanya para pekerja kantoran saja yang menjadi penumpang *densha* tapi semua orang dari berbagai kalangan juga memakai *densha* sebagai alat transportasi mereka. Mulai dari anak sekolah sampai kakek nenek menggunakan *densha* untuk mengantar mereka ke tempat tujuannya. Hal ini menyebabkan padatnya penumpang dalam *densha* apalagi pada jam-jam padat seperti pada waktu pagi hari dimana banyak orang yang berangkat kerja atau masuk sekolah dan sore menjelang malam ketika banyak orang pulang kerja atau pulang sekolah. Padatnya penumpang di *densha* membuat para penumpang harus saling berdesakan rapat sekali dan ini sangat

menguntungkan bagi *Chikan* (痴漢) karena dalam keadaan seperti itu lebih mudah untuk meraba tubuh korbannya.

3. Waktu yang dipilih *Chikan* (痴漢) untuk melakukan aksinya banyak terjadi pada jam-jam dimana orang banyak menggunakan *densha* yaitu pada waktu pagi hari di antara jam 7 sampai jam 9 pagi dan pada waktu sore hari menjelang malam antara jam 5 sore sampai jam 7 malam. Karena pada jam-jam itu banyak orang yang pergi dan pulang kerja atau sekolah.
4. Saat melakukan pelecehan terhadap korbannya, *Chikan* (痴漢) memilih bagian tubuh yang disukainya. Bagian tubuh korban yang diraba *Chikan* (痴漢) adalah bagian tubuh atas dan bawah tapi bagian tubuh korban yang banyak diraba oleh *Chikan* (痴漢) adalah bagian bawah tubuh yaitu bagian bokong korban.
5. Selain memilih bagian tubuh korban, *Chikan* (痴漢) juga memilih perempuan yang menjadi korbannya. Korban-korban *Chikan* (痴漢) rata-rata berumur belasan sampai dua puluhan. Seperti dalam kasus-kasus *Chikan* (痴漢) pada Bab 3 yang membuktikan bahwa korban-korban *Chikan* (痴漢) banyak yang masih berstatus SMA atau mahasiswi. Hal ini dikarenakan *Chikan* (痴漢) tidak bisa menahan gairahnya ketika melihat korban dengan pakaiannya yang minim.

6. Para *Chikan* (痴漢) berasal dari berbagai lapisan masyarakat bahkan ada *Chikan* (痴漢) yang bekerja sebagai pelindung masyarakat tapi malah melakukan pelecehan terhadap orang yang seharusnya mereka lindungi. Hal ini dibuktikan pada kasus-kasus *Chikan* (痴漢) yang ada dalam Bab 3 dimana dalam kasus-kasus tersebut ada *Chikan* (痴漢) yang berprofesi sebagai guru, polisi, satpam dan lain-lain.

日本社会における痴漢現象及び痴漢行為の分析

イングリド・ナタリー

0242033

日本語学科

マラナタキリスト教大学

バンドン **2008**

序論

電車内における痴漢現象は日本では既に日常茶飯事化している。この現象は都会の駅だけで起こっているのではない。日本現代漢字辞典によると痴漢の「痴」は愚かという意味で、「漢」は男性を指す接尾辞である。これによると、「痴漢」という単語は愚かな男で女性にいたずらをする人だという意味になっている。

痴漢は公共輸送機関が賑やかで人が多いときを利用し、女性の性的な体部（乳房、腿または尻）を触ることにより、女性にいたずらをする。

この研究において、筆者は記述分析方法を使い、電車内における痴漢事件によりその現象またその行為を分析するのである。

本論

痴漢は普段人々が通勤時のラッシュアワーに行為をするのである。人々は普段朝に仕事に行き、夕方から夜にかけて仕事から帰るため、このとき電車は人々で満員になるのである、電車に乗ることができるように、人々は押し合へし合いしなければならないのである。この時が痴漢の待っているときである。そのような状況は彼らの行為をスムーズにするのである。近年、年々被害者の数が増えるため、痴漢は日本社会の関心を呼んでいる。2004年に警察に通報された電車内における痴漢によるセクハラ事件が2201

件あり、その半分以上が朝のラッシュに行われるという記事がある。大阪府警によると2年前416人の痴漢が逮捕され、前年より人数は8パーセント上昇している。

行為をする際痴漢は被害者をでたらめに選ぶのではない。痴漢の被害者は普通十代か二十代、つまり女子中学生から女子大学生までである。中学生や大学生だけではなく、多くの女子社員も痴漢の被害者になることもある。痴漢が好む体の部分は尻、乳房や腿であるため、被害者は学校の制服（セーラー服）を着ている女子高生が多いである。なぜならば、女子高生はほとんど非常に短いスカートを履き、そのせいで痴漢の注目を引くからである。女子高生に続いて人数が最も多い被害者は女子大学生である。多くの女子大学生は流行でセクシーな服を着るため、それこそが痴漢のが被害者により欲しいものである。

求痴漢の被害者が年々増える理由としては被害者が痴漢のセクハラ行為に対抗することに勇気がないためである。見知らない人に囲まれる多くの被害者は他人の注目を引くより何も起こらない振りをするか黙る方がましだと考える。悲鳴をあげて自分を電車内の他人の注目の的になることを嫌がるのである。従って多くの被害者は痴漢からセクハラを受けたときに黙ってしまうのである。しかし、セクハラを受けたときはだまっているが、駅に着き次第警官に通報する被害者もいるため、警官が容疑者を逮捕することができ

る場合もある。そのほかに、非常に込んでいる電車内で逃げるのが難しいとしても、その場から逃避する被害者もいる。

痴漢行為が犯罪ではなく、迷惑の行為として考え3人がまた多いが、日本政府は痴漢行為を真剣に考え、痴漢に7年間の拘置あるいは5万円までの罰金という犯罪法規を出したのである。

痴漢によるセクハラが日本社会において現象化している。痴漢のセクハラを受けた被害者の数が年々多くなっている。一方、痴漢の方は、公然と自分たちのクラブ、痴漢友の会まで作るのである。会員は高校生から70歳の男性までのさまざま年代からなる。しかし最も多いのは、30歳のサラリーマンである。これらのサラリーマンはほとんど結婚しており、収入も大である。痴漢クラブを設立した大堀茂は「痴漢クラブの会員になる人はさまざまな職業を持っている。仏教僧、校長、教師など、役人、医者それからまた多くの職業を持っている人もいる」という。月一回この痴漢共の会は、東京の辺りにあるクラブに集会を行い、話し合うのである。集会を行う他彼らはインターネットでどこの電車の線が込んでいるとか警察が痴漢取締利を行っているとかの情報交換をするのである。たとえ互いに知り合いではないが、彼等は痴漢用の特別なインターネットフォーラムで話し合うことができるのである。

結論

1. 痴漢は日本の都会社会における社会現象である。このことは年々増えていく痴漢の件数により証明される。
2. 電車内において痴漢事件が多いことは電車は痴漢が痴漢行為をするときの好む所であることを証明する。
3. 痴漢が行為をするために選ぶ時間は電車を利用する人が多い時間である。つまり、午前7時から9時、午後5時から7時かけてである。その時間は通勤、通学の時間である。
4. 被害者に嫌がらせをする際、痴漢は自分が好んでいる体の部分を選ぶ。痴漢が触る体の部分は上半身と下半身であるが、痴漢が触ることが多い部分は下半身であり、つまり被害者の尻である。
5. 被害者の体の部分の他に、痴漢も被害者にする女性を選ぶ。痴漢の被害者は普通事十代から二十代の女性である。
6. 痴漢はさまざまな社会地位からの人であり、それどころが社会の護衛を職業とする人間もいる。これについては、第三章に詳細に述べてある。